

# 「北方領土問題について思ったこと」

根室市立歯舞小中学校

3年 桑野 心晴

択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島からなる日本固有の領土「北方領土」。しかし今、北方領土はロシアに占領されています。

私は北方領土問題に興味があったので、北方領土関連の行事ではいつも授業以上の知識を身につけようとしていました。しかし、小学生の頃の私は「ロシアが悪い！ロシア人が島から出ていけば解決する話ではないか！」という考えの一点張りでした。

私が中学二年生の時、学校で現島民のロシアの人たちと交流する行事が行われました。その行事を通して私は、北方領土は日本固有の領土だけど、今そこで暮らしているのは彼らであり、彼らにとつての故郷は北方領土だということにやっと気が付きました。彼らは私たちと同じ人間です。理解ができない言葉を発しながらいきなり攻撃され、島を追放されたら誰だって恐怖を覚えるでしょう。私はそのような悲しみが連鎖しないためにも問題が一日でも早く解決してほしいと思っています。例えば、日本人とロシア人が一緒に暮らすとします。そうすれば日本がロシアに大金を払わなくても島周辺で漁をすることが可能になり、水産資源が豊かになるでしょう。ロシアは日本が近くなるので物資を輸入したり資源を輸出して、貿易の幅が広がることでしょう。そして何より元島民の人たちが故郷に帰ることができます。

私は曾祖母が元島民であり、自分が島民四世だったということを最近知りました。私は、心から、もう一度曾祖母が故郷へ帰ることができたらいいなと思いました。しかし、曾祖母は故郷に帰ることなくとうの昔に亡くなっています。

終戦から七十四年が経ち、元島民の平均年齢が八十歳を超え、語り手の存在がどんどん少なくなっています。何年も続いている領土問題が簡単に解決しないことも理解しています。だからこそ今、北方領土に一番近い場所で暮らしている私たちが動いていかなければならないと思います。きっかけなど何でもいいのです。私たちが北方領土問題に関心を持ち、声を出し続けていくことが両国が納得する領土問題の解決への一歩になることを願っています。